

## 特集 学生の研究活動報告－国内学会大会・国際会議参加記 29

### ASEAN グローバルプログラム に参加して

河合 伸哉  
Shinya KAWAI  
物質化学科 2年

#### 1. はじめに

2018年8月28日から9月6日にかけてベトナムのハノイでの企業見学、ハノイ工業大学の学生とPBL、シンガポールでの大学訪問や企業訪問を行なうプログラムに参加した。具体的な日程や内容は表1に示す。

表1 プログラムの日程

8月28日(火)	出国 ハノイ着
8月29日(水)	企業訪問
8月30日(木) 8月31日(金)	現地学生とPBL
9月1日(土)	市内視察
9月2日(日)	シンガポール着 講義
9月3日(月)	NTU 訪問
9月4日(火)	Google 社訪問 交流会
9月5日(水)	自由時間
9月6日(木)	帰国

#### 2. 参加目的

今回のプログラムの目的は海外経験を持ち、考え方や、物の見方(視野)を広げることであった。私自身の学習目標は三つあり、一つ目はグローバル社会に身を置いてビジネスを成功させている人の考え方を知り、それによって自分の大学生活での考え方も変える、ということである。二つ目は海外の街を歩き、新たな発見や新しい考え方をもつ、ということで、三つ目はPBLを通して積極的な自分の意見を持つ、ということであった。その三つの目標の先で、まだ見ぬ新しい世界で行動できるマインドや、

最後まで諦めないというタフネスさを向上させたいと考えていた。

#### 3. 研修内容

ここでは表1の行程の中で、最も印象に残っているものを述べる。それは、NTU(南洋工科大学)訪問である。

まず、はじめに大学を自由に見学できる時間があった。そこでは学生向けの食堂をみたが、日本のように大きな食堂があるわけではなく、フードコートのようになっており、様々な店が並んでいて驚いた。日本にもあるショップ(例えばマクドナルド)も多かったが、全て知っているものではなく、知らないメニューもあり、その国の特性を生かして様々なメニューを作り出していることにも驚いた。次に大きなテレビジョン、食品、文房具などを売っているスーパーもあり、とても広い印象だが、一番心に残っているのは、ぬいぐるみのお店があったことであり、大学内でぬいぐるみを買う学生がそんなにたくさんいるのだろうかと思った。本当に大学内で生活の全てが完結できてしまうようで、そのことにとっても感動した。

昼過ぎからは大学の講義に参加した。そこでは全て英語で「機械」系の授業を受けた。そこではロボットアームの仕組みが講義されており、行列の公式から色々な動画を投影されていた。海外ではより実践を考えて、そこから学んでいくようで、とても化学の学び方に近いものがあったと感じた。もう一つ、



写真1 NTU 校内の風景

この授業を受けて心に残ったことがある。それは授業の時間が短いことである。日本では90分の授業時間（45分が2つ連続）のところ、シンガポールでは50分の授業時間で1つの講義が終了することに驚いた。その代わり7時間目、8時間目と授業数も多かった。

次に研究室を見学させていただいた。それも同じく機械工学、ロボット系の研究室で自分にはよく理解することができないものだったが、レーシングカーのようなものを見て、このように企業さんが作って選手に提供していると思っていたものを、学生が作っており、実際レースに出て勝っているということで、実践的なものを見たり触れたりし、そこから学ぶというスタイルに驚き、またそれが勝利にも貢献しているのかもしれないと考えた。

そこで現地の研究しておられる学生さんが「失敗は成功のもと」ということを言っておられ、その言葉自体はよく聞くものだが、そこで研究をしていて、何度も失敗してらっしゃる彼らの言葉と思うと、とても重みのある言葉に聞こえた。

最後は南洋工科大学で学ばれている日本人のビジネスパーソンのお二人に、質問をする機会があった。多くの国を巡ったり、長期に渡って留学に行ったというお二人から話はとても印象に残った。特にとても強く印象に残ったことは、そうして世界で活躍している人も同じ人間であり、同じような大学生活を送っていたと聞いた事だった。一つ違うのが自分よりもう少し多くの国を回られていたことだけで、英語がそこまで話せるわけでもなく各国へ飛び込んでいかれたとのことで、その経験がそのまま海外の企業に就職するのに役立つということをととても強く感じた。

#### 4. おわりに

この研修を通して、自分の目的に対して自分よりも大きく成長することができたと感じている。まずは自分が積極的になるというのは、ベトナムの現地学生と交流した時に、進んでいろいろなことに挑戦できた上、ベトナムやシンガポールなどの異国で十日間という短い時間であったが、このプログラムによって思考の領域が大きくなったと感じている。それは例えば食文化をとっても影響したと思っており、日本料理とは大きく異なる「香り」に耐え切ったことも影響しているかもしれない。また、生活習慣の違いにも感動した。ひたたくり、スリが多いと事前に聞いていたが、実際は（幸い）擦られたりひたたくられそうになったりした事はなく、どちらかといえば、元の値段よりも高い値段で売ろうとしてくる方との交渉が大変だった。日本とベトナムの違いがあっても、皆それぞれ精一杯生きていることをこの研修を通して本当によく感じた。

シンガポールは日本とさほど変わりはなく、大きな違いといえば、色々な国の言葉が飛び交っていることで、そこが我々日本人と、シンガポール人の違いだと認識した。そのことによって肌の色、声、性別などで区別することがなく、みんなまとまって生きているということをととても大きく感じた。

今回の研修で二つの国に行け、一番大きく感じたことは、どちらの国も皆が助け合い、協力しあって生きていることである。これについて日本は少し行き過ぎてしまったのか、まだそこまで行っていないのかはわからないが、二つの国と比べて、団結し合い、みんなで助け合っているところが弱いように感じた。

今回の研修で本当に自分の考え方が大きく変わったと感じ、目的の大部分を達成できたと思っている。